



もっと しつかり 理解する ための One Point 5.5倍バランス ゴーゴー・バランス

グローバル5.5倍バランスファンド(1年決算型) 愛称:ゴーゴー・バランス
追加型投信/内外/資産複合

日興アセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第368号
加入協会:一般社団法人 投資信託協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会



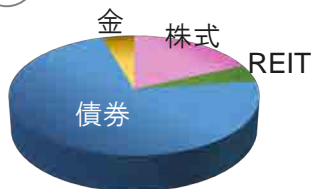
ワンポイント One Point 5.5倍バランス

グローバル5.5倍バランスファンド(1年決算型) 愛称: ゴーゴー・バランス

1

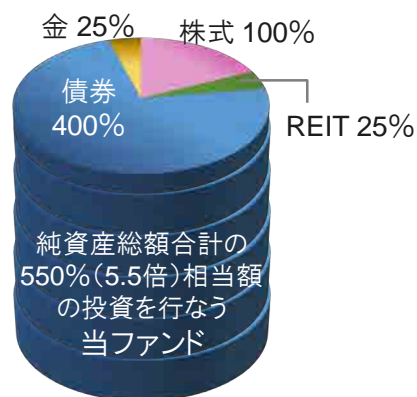
「5.5倍」だなんて、ギャンブルなの!?

リスク低減をめざして分散すると、
どうしても株式やREITが少なくなって、
マーケットが良い時に一緒に
上がれないんだよなあ...



一般的なバランスファンド
の一例

先物を上手に使えば、
債券をメインにしながらも、
株式やREITにしっかり投資する、
「増やすための分散」になるのでは？



上記はイメージ図です。

実際の運用は、純資産総額合計の550%とまらない場合があります。また、資産毎の比率も変動します。また、資料作成時点のものであり、投資対象資産および資産配分比率は変更される可能性があります。

確かに「5.5倍」などという誤解する方もいるのですが、決して投機のためのファンドではありません。特徴をひとことで表すなら、「**投信ならではの仕組みの工夫**」によって「**骨太な長期の資産形成を行なうためのツール**」となります。

債券や株式の指数の一部には、日経平均株価に対する「日経平均先物」といったように、**基本的に元の資産と同じように動く「上場先物」**が存在します。一般に**数パーセントの現金を預託**することで取引できるため、主に投信会社やプロの投資家が運用効率の向上のためなどに活用しています。

当ファンドはその仕組みを賢く利用し、「**あくまで分散の状態をキープしつつも、株式とREITの値上がり期待もあきらめない(相応のリスクを受入れながら)ファンド**」として開発されました。

先物なんて怖い!?



一般的な「怖い先物」 のイメージ

- ✓ 少額の資金で、
- ✓ 値動きの激しいものに
- ✓ 多額の投資をし、
- ✓ 大きな収益を期待。

当ファンドにおける 「仕組みのための」先物活用

- ✓ 一般的な投信の投資対象と同じ資産を、
- ✓ それ自体で収益を極大化するためでなく、
- ✓ 全体の仕組みを成立させるものとして利用。

「商品先物で大損した」などといった投機的なイメージが強い先物ですが、「**何の先物を、何のために使っているのか**」が重要です。

まず「何の先物か」。例えば現物の債券価格と先物の価格は、同じ債券という資産を対象とする取引価格です。そのため、取引方法に違いはあっても、どちらかの価格変動だけが極端に大きくなることは基本的にありません。

そして、それを「何のために」使っているか。当ファンドでは、**それ自体で収益を極大化するためでなく、全体の仕組みを成立させるパーツとして使っています**。つまり「仕組みのための」先物活用です。



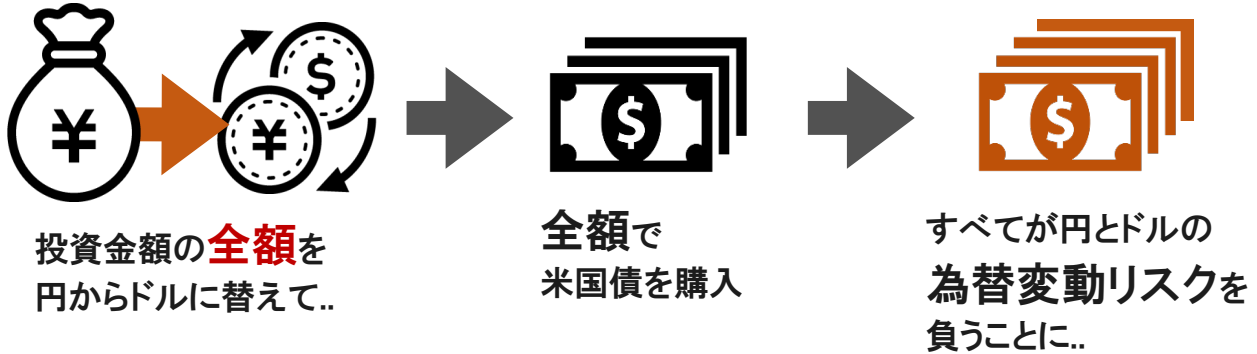
ワンポイント One Point 5.5倍バランス

グローバル5.5倍バランスファンド(1年決算型) 愛称:ゴージャス・バランス

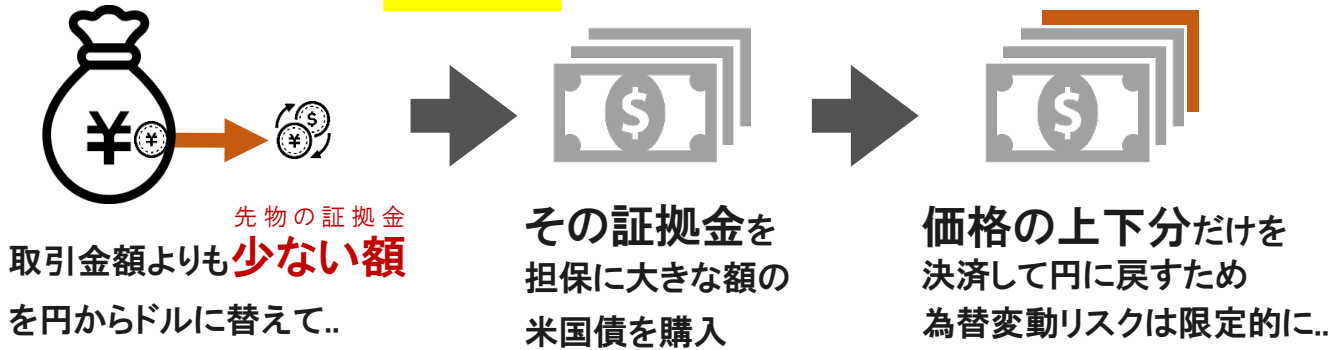
3

一部に先物を使うメリットが!?

通常の米国債取引



先物による米国債取引



●簡易化したイメージ図であり、実際とは異なります。●ドルとは米ドルを指します。●米国債のイラストでは、券面が増えたような画像になっていますが価格の上昇を意図しています。

実は先物を使うと、海外投資につきものの**為替変動リスク(円高になることでマイナスになるリスク)**を非常に小さくできるというメリットがあります。米国債を例に、先物取引の仕組みを見てみましょう。

通常の投資の場合は、**全額**をいったん円からドルに換えて投資するため、実質的には「債券と通貨に同時に投資」、つまり**為替リスクを100%取っていること**になります。

一方、先物取引の場合は**差し入れる数パーセントの証拠金部分**と、のちに発生する**債券の評価損益部分のみ**にしかかかりません。「元本部分」に**為替の影響を受けないこと**で、他資産との分散効果が高まることが期待されるのです。



ワンポイント One Point 5.5倍バランス

グローバル5.5倍バランスファンド(1年決算型) 愛称:ゴゴゴ・バランス

4

過去のシミュレーション結果は!?

下記は過去のものおよびシミュレーションの結果であり、当ファンドの運用実績ではありません。

各資産と「5.5倍バランス」のシミュレーションの推移 毎年の各資産との違いはどうだったか？

●各年の1年間の騰落率を高い順に並べたもの 期間:2003年~2019年 ただし2003年は3月末から、2019年は11月末までの騰落率。

2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
5.5倍バランス (シミュレーション) 43.4%	5.5倍バランス (シミュレーション) 31.9%	5.5倍バランス (シミュレーション) 32.1%	世界REIT 40.4%	金 24.2%	先進国国債 5.3%	5.5倍バランス (シミュレーション) 46.7%	5.5倍バランス (シミュレーション) 34.0%	5.5倍バランス (シミュレーション) 15.4%	5.5倍バランス (シミュレーション) 47.9%
世界株式 32.0%	世界REIT 27.9%	世界REIT 27.1%	5.5倍バランス (シミュレーション) 16.9%	5.5倍バランス (シミュレーション) 4.3%	金 2.4%	世界REIT 37.1%	金 28.5%	金 9.6%	世界REIT 38.8%
世界REIT 22.6%	世界株式 9.5%	金 13.8%	金 16.0%	世界株式 2.5%	1倍バランス (シミュレーション) -7.8%	世界株式 29.1%	世界株式 10.4%	先進国国債 4.9%	世界株式 15.3%
金 22.4%	1倍バランス (シミュレーション) 5.4%	世界株式 13.3%	世界株式 12.0%	1倍バランス (シミュレーション) 0.9%	5.5倍バランス (シミュレーション) -40.0%	金 22.7%	世界REIT 7.4%	1倍バランス (シミュレーション) 2.9%	1倍バランス (シミュレーション) 7.6%
1倍バランス (シミュレーション) 7.1%	金 3.4%	1倍バランス (シミュレーション) 5.4%	1倍バランス (シミュレーション) 3.0%	先進国国債 -0.0%	世界株式 -41.1%	1倍バランス (シミュレーション) 8.1%	1倍バランス (シミュレーション) 5.8%	世界REIT -3.4%	金 6.0%
先進国国債 -0.3%	先進国国債 3.2%	先進国国債 1.6%	先進国国債 -2.0%	世界REIT -16.8%	世界REIT -55.5%	先進国国債 0.2%	先進国国債 2.7%	世界株式 -6.9%	先進国国債 3.9%

信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成 ●世界株式および先進国国債は先物理論価格ベース(各資産への投資に際して先物取引を用いると仮定した場合のリターンを示すために、日興アセットマネジメントが各資産の為替ヘッジ指数を用いるなどして算出したものであり、実在するものではありません)、金は先物

●使用した指数は次ページをご参照ください。なお、使用した指数は当ファンドのベンチマークではありません。

こうした図表には一般に、「分散投資は1位にもどりにもなりません」といった説明が添えられることが多いもの。しかし5.5倍バランス(シミュレーション)の場合はご覧の通り、**通常**の分散投資と異なり**1位を取った年も多数**という驚きの結果です。

ただしこれはシミュレーション、つまり同じ運用方法を過去のマーケットに当てはめて行なったバックテストでしかありません。しかし当ファンドが、ファンドマネージャーに配分比率の変更の裁量を与えない、いわゆる「**ルールベース**」の運用を行なう商品であり、また上表にあるような指数(インデックス)をベースとした設計であることを考えると、比較的参考にしやすいシミュレーションだといえます。

そしてこちらが前ページの続き、2013年から2019年までのランキング。

2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
世界REIT 25.4%	5.5倍バランス (シミュレーション) 59.2%	世界REIT 1.6%	5.5倍バランス (シミュレーション) 20.9%	5.5倍バランス (シミュレーション) 26.0%	先進国国債 0.1%	5.5倍バランス (シミュレーション) 61.8%
世界株式 24.7%	世界REIT 40.7%	世界株式 0.7%	世界株式 8.6%	世界株式 18.9%	1倍バランス (シミュレーション) -1.9%	世界REIT 24.7%
5.5倍バランス (シミュレーション) 19.7%	1倍バランス (シミュレーション) 9.1%	先進国国債 0.7%	金 7.4%	金 11.7%	金 -4.7%	世界株式 21.2%
1倍バランス (シミュレーション) 3.7%	世界株式 8.7%	1倍バランス (シミュレーション) 0.4%	1倍バランス (シミュレーション) 3.8%	世界REIT 4.7%	世界REIT -6.7%	金 11.7%
先進国国債 -0.2%	先進国国債 8.0%	5.5倍バランス (シミュレーション) 0.3%	世界REIT 3.6%	1倍バランス (シミュレーション) 4.4%	世界株式 -8.9%	1倍バランス (シミュレーション) 9.5%
金 -28.7%	金 -1.8%	金 -10.9%	先進国国債 2.1%	先進国国債 0.6%	5.5倍バランス (シミュレーション) -10.8%	先進国国債 5.6%

使用した指数は次の通りです。

世界株式 (先物理論価格ベース):MSCI ACワールド指数 (配当込、為替ヘッジあり、米ドルベース)から米ドルの1か月物金利を控除したもの、世界REIT(現物):S&P先進国REIT指数(配当込、円ベース)、先進国国債(先物理論価格ベース):FTSE世界国債インデックス(為替ヘッジあり、円ベース)から日本円の1か月物金利を控除したもの、金(先物):ブルームバーグ金サブ指数(エクセスリターン*ベース)

*エクセスリターンとは、先物取引のロールオーバーなどを考慮した指数です。先物取引がオフバランス取引であることや現地の金利が排除されていることなどから、現物資産への投資に為替ヘッジを行なった指数と概ね同じような値動きになります。

通しで見ると、投資環境が良い時期には株式やREITにしっかり投資している恩恵を受けた一方、リーマン・ショックの2008年には**マイナス40%**と、世界株式や世界REITほどではないまでも、大きな下落を経験したことには留意が必要です。

しかし、長期にわたって相対的にランキングの上位に居続けたことにより、シミュレーション期間における累積リターンは極めて大きなものに。まさに「増やすための分散」といえるシミュレーション結果だったといえます。

前ページおよび当ページの表は過去のものおよびシミュレーションの結果であり、当ファンドの運用実績ではありません。

前ページおよび当ページの表における「5.5倍バランス」とは、投資者の皆様にご理解いただくために、当ファンドが投資する各市場の代表的な指数を当資料作成時点の資産配分比率で合成、現金部分に対する日本円の1か月物金利を加味し、月次リバランスをした結果であり、実在するポートフォリオの推移ではありません。また、「1倍バランス」とは、「5.5倍バランス」のシミュレーションと同指数を用いて、「5.5倍バランス」の各資産配分比率を5.5で除した比率で合成し、月次リバランスをした結果であり、実在するポートフォリオの値ではありません。

記載は過去のものおよびシミュレーションの結果であり、将来の運用成果などを約束するものではありません。当ファンドの実際の運用においては、売買コストや信託報酬、運用資産の規模、設定解約に伴う資金流出入、実際に行なうリバランスのタイミングなどによる影響が生じます。そのため、当ファンドの運用成果が、上記シミュレーションと同様になることを約束するものではありません。



ワンポイント One Point 5.5倍バランス

グローバル5.5倍バランスファンド(1年決算型) 愛称: ゴーゴー・バランス

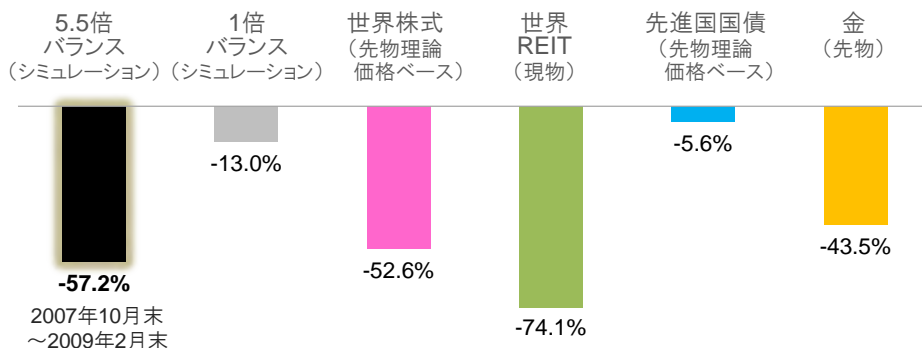
5

秘密は“回復力”にアリ!?

下記は過去のものおよびシミュレーションの結果であり、当ファンドの運用実績ではありません。

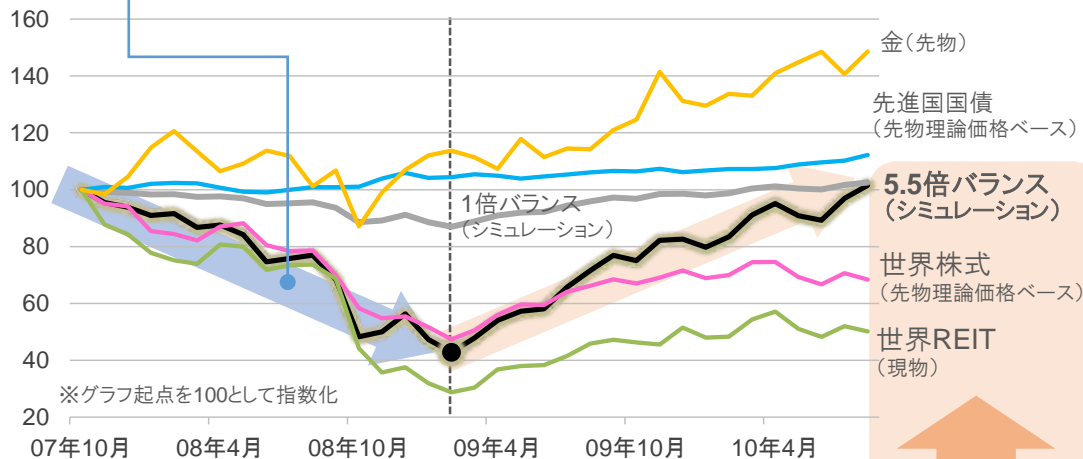
各資産とシミュレーションの最大ドローダウン

(2003年3月末～2019年11月末、月次)



最大ドローダウンの時期とその後の回復局面の推移

(2007年10月末～2010年8月末、月次)



5.5倍バランス(シミュレーション)は下落後に力強い回復を遂げ、約18ヵ月で下落前の水準を回復。

一方、世界株式は56ヵ月、世界REITは62ヵ月を要した。

信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメント作成
上記グラフに関する留意点および使用した指数は次ページをご参照ください。
当ページに関するより詳細な情報については、2020年4月2日発行の当ファンドのレポート(スポットレポート)もご覧ください。

過去のシミュレーション期間中で最も大きな下落を経験した期間を月末ベースで詳しく調べてみると、それは2007年10月末から2009年2月末までの**-57.2%**でした。

いわゆるリーマン・ショックを挟んだこの期間、同様の最大下落率は世界株式で**-52.6%**、世界REITは**-74.1%**と、主要資産はどれも大きく下落しました。

しかし注目したいのはその後。

「5.5倍バランス(シミュレーション)」は下落後に力強い回復を遂げ、約18ヵ月で下落前の水準を回復しました。一方、世界株式は56ヵ月、世界REITは62ヵ月を要しています。この時期はまさに、「分散しながらもしっかり株式とREITに投資する」という商品設計が奏功したものといえます。

前ページのグラフは過去のものおよびシミュレーションの結果であり、
当ファンドの運用実績ではありません。

前ページのグラフにおける「5.5倍バランス」とは、投資者の皆様にご理解いただくために、当ファンドが投資する各市場の代表的な指数を当資料作成時点の資産配分比率で合成、現金部分に対する日本円の1ヵ月物金利を加味し、月次リバランスをした結果であり、実在するポートフォリオの推移ではありません。また、「1倍バランス」とは、「5.5倍バランス」のシミュレーションと同指数を用いて、「5.5倍バランス」の各資産配分比率を5.5で除した比率で合成し、月次リバランスをした結果であり、実在するポートフォリオの値ではありません。記載は過去のものおよびシミュレーションの結果であり、将来の運用成果などを約束するものではありません。当ファンドの実際の運用においては、売買コストや信託報酬、運用資産の規模、設定解約に伴う資金流出入、実際に行なうリバランスのタイミングなどによる影響が生じます。そのため、当ファンドの運用成果が、上記シミュレーションと同様になることを約束するものではありません。

2020年2月12日に設定された当ファンドの実際の基準価額は、いわゆる「コロナ・ショック」により、3月19日までで約40%と大幅に下落。しかし、3月19日から同月末までの“回復力”には目を見張るものがありました。

今後のマーケット全体の展開も、当ファンドの推移も予想できるものではありません。しかし、設定直後の試練の時期に見せたこうした値動きには、「骨太な長期の資産形成を行なうためのツール」としての可能性を感じることができます。

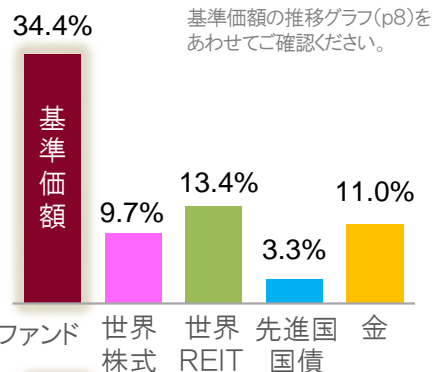
信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

使用した指数は前ページと同様であり、下記の通りです。基準価額は信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の値です。海外資産は前営業日の価格が基準価額に反映されるため、各指数は前営業日の値を用いて計算しています。各指数に含まれる国内の資産は本来、基準価額の算出日における価格を用いますが、本資料では便宜上、前営業日の数値をもとに計算しています。右記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

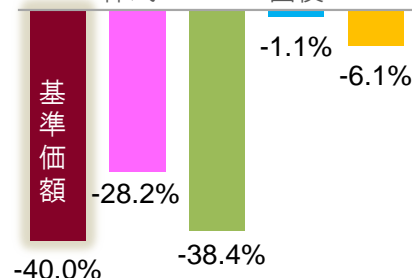
世界株式および先進国国債は先物理論価格ベース(先物取引を用いると仮定した場合のリターンを示すために、日興アセットマネジメントが各資産の為替ヘッジ指数を用いるなどして算出したものであり、実在するものではありません)、金は先物使用した指数は次の通りです。なお、使用した指数は当ファンドのベンチマークではありません。世界株式(先物理論価格ベース):MSCI ACワールド指数(配当込、為替ヘッジあり、米ドルベース)から米ドルの1ヵ月物金利を控除したもの、世界REIT(現物):S&P先進国REIT指数(配当込、円ベース)、先進国国債(先物理論価格ベース):FTSE世界国債インデックス(為替ヘッジあり、円ベース)から日本円の1ヵ月物金利を控除したもの、金(先物):ブルームバーグ金サブ指数(エクセスリターン*ベース) *エクセスリターンとは、先物取引のロールオーバーなどを考慮した指数です。先物取引がオフバランス取引であることや現地の金利が排除されていることなどから、現物資産への投資に為替ヘッジを行なった指数と概ね同じような値動きになります。

当資料は、投資者の皆様にご理解を深めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

基準価額最安値*
からの騰落率比較
2020年3月19日
~3月31日
*資料作成日時点



概ね下落局面の
騰落率比較
2020年2月10日
(設定日前営業日)
~3月19日



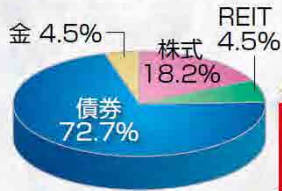
基準価額の推移グラフ(p8)をあわせてご確認ください。

当資料では、世界の株式、REIT、債券および金の4資産への分散投資にあたり、先物取引の活用によって純資産総額の5.5倍相当額の投資を行なう運用手法を「5.5倍バランス(ゴーゴー・バランス)」としています。また、純資産総額の範囲で4資産に分散投資を行なう運用手法を「1倍バランス」としています。

基準価額変動リスクの大きいファンドですので、ご投資の際は慎重にご判断ください。

当ファンドの運用方法

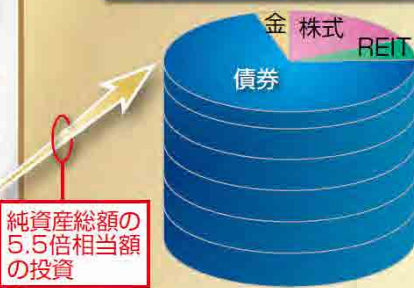
投資資産規模＝
純資産総額合計の100%



1倍バランス

※本資料では、純資産総額の範囲で4資産に分散投資を行なう運用手法を「1倍バランス」といいます。

投資資産規模＝
純資産総額合計の550%



5.5倍バランス

純資産総額の
5.5倍相当額
の投資

<資産配分比率> <投資資産> <主な投資対象>

株式 100% (18.2%×5.5倍)	世界株式	先進各国の株価指数先物、新興国の株価指数先物など
REIT 25% (4.5%×5.5倍)	世界REIT	世界各国のREIT指数のETF
債券 400% (72.7%×5.5倍)	先進国国債	先進各国の国債先物および国債
金 25% (4.5%×5.5倍)	金	金先物

※上記のほか、現物資産に投資を行なうこともあります。

※株式、債券および金への投資には主に先物取引を活用します。先進各国の株価指数先物取引および国債先物取引、金先物取引においては、買建額に対する為替変動の影響がなく、為替変動の影響を受けるのは主に評価損益分と外貨建て証拠金となります。このほか、実質的に為替変動の影響を受けるのは、新興国の株価指数先物取引と海外REITおよび海外の現物資産となります。

※当ファンドでは、上記の外貨建て資産などに対し、対円での為替ヘッジを行なう場合があります。

※為替変動の影響を受ける外貨建て資産の実質的な割合(為替ヘッジを行なった場合には為替ヘッジ換算ベース)は、純資産総額の25～50%程度を想定しています。

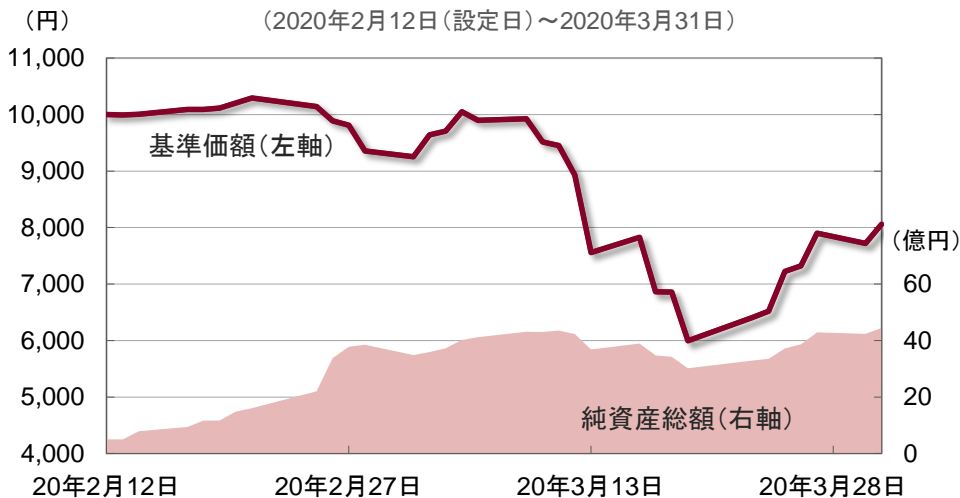
※上記の比率は、実質的な資産毎の比率(純資産総額合計の550%の場合の資産の内訳)です。原則、固定比率ですが、今後変更される可能性があります。

※実際の運用は、純資産総額合計の550%とならない場合があります。また、資産毎の比率も変動します。

上図はイメージ図です。上記の「1倍バランス」の資産配分比率は、「5.5倍バランス」の実質的な資産配分比率を5.5で除して(端数は四捨五入)計算したものであり、実在するポートフォリオではありません。上記は資料作成時点のものであり、投資対象資産および資産配分比率は変更される可能性があります。

<基準価額と純資産総額の推移>

(2020年2月12日(設定日)～2020年3月31日)



(2020年3月31日現在)

基準価額

8,059 円

設定来の騰落率

▲19.4%

純資産総額

44 億円

※ 基準価額は信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の1万口当たりの値です。

※ 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

お申込みに際しての留意事項

■リスク情報

投資者の皆様は投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様には帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。当ファンドは、主に債券、上場投資信託証券および株価指数先物取引・国債先物取引・金先物取引にかかる権利を実質的な投資対象としますので、債券、上場投資信託証券および株価指数先物取引・国債先物取引・金先物取引にかかる権利の価格の下落や、債券および不動産投信の発行体の財務状況や業績の悪化、不動産および金地金の市況の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

主なリスクは以下の通りです。

【価格変動リスク】

- ・公社債は、金利変動により価格が変動するリスクがあります。一般に金利が上昇した場合には価格は下落し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。ただし、その価格変動幅は、残存期間やクーポンレートなどの発行条件などにより債券ごとに異なります。
- ・上場投資信託証券の価格は、連動目標とする資産価格および当該資産が関係する市況や市況の変化などの要因により変動します。上記事項に関する変動があった場合、ファンドに損失が生じるリスクがあります。不動産投信へ投資を行なう上場投資信託証券の価格については、不動産を取り巻く環境や規制、賃料水準、稼働率、不動産市況や長短の金利動向、マクロ経済の変化など様々な要因により価格が変動します。
- ・株価指数先物取引、国債先物取引および金先物取引にかかる権利の価格は、投資対象となる原資産の値動きや先物市場の需給および金利の動きなどの影響を受けて変動します。ファンドにおいては、当該先物取引にかかる権利の値動きに予想外の変動があった場合、重大な損失が生じるリスクがあります。

【流動性リスク】

- ・市場規模や取引量が少ない状況においては、有価証券および先物取引にかかる権利などの取得、売却時の売買価格は取引量の大きさに影響を受け、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないリスク、評価価格どおりに売却できないリスク、あるいは、価格の高低に関わらず取引量が限られてしまうリスクがあり、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。

【信用リスク】

- ・公社債および短期金融資産の発行体にデフォルト(債務不履行)が生じた場合またはそれが予想される場合には、公社債および短期金融資産の価格が下落(価格がゼロになることもあります。)し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。また、実際にデフォルトが生じた場合、投資した資金が回収できないリスクが高い確率で発生します。
- ・上場投資信託証券について、金融商品取引所が定める一定の基準に該当した場合、上場が廃止される可能性があり、廃止される恐れや廃止となる場合も上場投資信託証券の価格は下がり、ファンドにおいて重大な損失が生じるリスクがあります。

【為替変動リスク】

- ・外貨建資産については、一般に外国為替相場が当該資産の通貨に対して円高になった場合には、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。
- ・一部の資産において、為替ヘッジを行なうにあたっては、円の金利が為替ヘッジを行なう通貨の金利より低い場合、この金利差に相当するヘッジコストが発生します。為替および金利の動向によっては、為替ヘッジに伴うヘッジコストが予想以上に発生する場合があります。

【カントリー・リスク】

- ・投資対象国における非常事態など(金融危機、財政上の理由による国自体のデフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争など)を含む市況動向や資金動向などによっては、ファンドにおいて重大な損失が生じるリスクがあり、投資方針に従った運用ができない場合があります。

【デリバティブリスク】

- ・金融契約に基づくデリバティブとよばれる金融派生商品を用いることがあり、その価値は基礎となる原資産価値などに依存し、またそれらによって変動します。デリバティブの価値は、種類によっては、基礎となる原資産の価値以上に変動することがあります。

【レバレッジリスク】

- ・株価指数先物取引、国債先物取引および金先物取引などを積極的に用いてレバレッジ取引を行ないません。したがって、株式、債券および金地金市況の影響を大きく受けません。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

■その他の留意事項

- ・当資料は、投資者の皆様には「グローバル5.5倍バランスファンド(1年決算型)愛称:ゴーゴー・バランス」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- ・当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- ・投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- ・分配金は、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した運用収益を超えて支払われる場合があります。投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。
- ・投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様には帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書(交付目論見書)などを販売会社よりお渡しますので、内容を必ずご確認くださいの上、お客様ご自身でご判断ください。

お申込みメモ

手数料等の概要

投資者の皆様には、以下の費用をご負担いただけます。

<申込時、換金時にご負担いただく費用>

購入時手数料	購入時の基準価額に対し3.3%(税抜3%)以内 ※購入時手数料は販売会社が定めます。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ※収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。
換金手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。

<信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用>

運用管理費用 (信託報酬)	ファンドの日々の純資産総額に対し年率1.089%(税抜0.99%) ※この他に、投資対象とする上場投資信託証券には運用などに係る費用がかかりますが、投資する上場投資信託証券の銘柄は固定されていないため、事前に料率、上限額などを表示することができません。
その他の費用・手数料	目論見書などの作成・交付および計理等の業務に係る費用(業務委託する場合の委託費用を含みます。)、監査費用などについては、ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額が信託財産から支払われます。 組入る有価証券の売買委託手数料、借入金の利息および立替金の利息などがその都度、信託財産から支払われます。 ※運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することはできません。また、有価証券の貸付は現在行っておりませんので、それに関連する報酬はかかりません。

※投資者の皆様にご負担いただくファンドの費用などの合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

商品分類	追加型投信/内外/資産複合
購入単位	販売会社が定める単位 ※販売会社の照会先にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
信託期間	2029年12月21日まで(2020年2月12日設定)
決算日	毎年12月21日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。 ※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額
購入・換金 申込不可日	販売会社の営業日であっても、購入・換金の申込日が下記のいずれかに該当する場合は、購入・換金の申込みの受付は行いません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ・ニューヨーク証券取引所の休業日 ・ニューヨークの銀行休業日 ・ニューヨーク商品取引所の休業日 ・シカゴ商品取引所の休業日 ・英国証券取引所の休業日 ・ロンドンの銀行休業日 ・ユーレックスにおけるすべてのデリバティブ取引に共通の休業日
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。
課税関係	原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の差益は課税の対象となります。 ※課税上は、株式投資信託として取り扱われます。 ※公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。 ※配当控除の適用はありません。 ※益金不算入制度は適用されません。

委託会社、その他関係法人

委託会社	日興アセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第368号 加入協会:一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会
受託会社	三井住友信託銀行株式会社
販売会社	販売会社については下記にお問い合わせください。 日興アセットマネジメント株式会社 [ホームページ] www.nikkoam.com/ [コールセンター] 0120-25-1404(午前9時~午後5時。土、日、祝・休日は除く。)

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

金融商品取引業者等の名称	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
株式会社秋田銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第2号	○		
auカブコム証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第61号	○	○	
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○	○	○
岡三オンライン証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第52号	○	○	
第四北越証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第128号	○		
中銀証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長(金商)第6号	○		
株式会社中国銀行	登録金融機関	中国財務局長(登金)第2号	○	○	
株式会社富山銀行	登録金融機関	北陸財務局長(登金)第1号	○		
ひろぎん証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長(金商)第20号	○		
フィデリティ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第152号	○		
北洋証券株式会社	金融商品取引業者	北海道財務局長(金商)第1号	○		
株式会社北陸銀行	登録金融機関	北陸財務局長(登金)第3号	○	○	
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第165号	○	○	
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○

(資料作成時点、50音順)

nikko am
Nikko Asset Management